

## 学校における環境保全・啓発事業

- 1 自治体名 ロシア沿海地方
- 2 発表者 ロスリャコーワ ワレンティエーナ (Roslyakova Valentina)  
沿海地方ダリネレーチェンスク市 (Dal' neryechensk) 第二中学校7年生
- 3 活動名 学校における環境保全・啓発事業への取り組み  
(植物栽培、学校周辺にある川の浄化活動、学校周辺自然環境研究  
沿海地方の生物多様性を紹介する講習会実施)
- 4 活動期間 植物栽培 - 約2年間、講習会実施 - 11年間  
学校周辺自然環境保全研究 - 10年間、川の浄化活動 - 2年間
- 5 活動場所 ダリネレーチェンスク市第二中学校周辺、学校周辺にある川
- 6 活動参加人数 植物栽培 - 30名、講習会実施 - 10名  
学校周辺自然環境保全研究 - 5名、川の浄化活動 - 30名

### 7 活動をはじめた経緯

生徒の手により学校の周りの環境改善を行い、植物の栽培方法を学ぶ。

講習実施団の中で講習の準備をしながら、生徒たちが沿海地方の自然環境の現状を学び、自分で学んだことを他の生徒たちに講習のときに伝える。何かの環境保全事業を実施する前に、周りの環境の現状を学ぶべきである。

学校周辺の自然環境の研究によって現状を把握でき、収集したデータを日常生活の中でも効率よく使えるように考えている。

生徒たちにごみの問題とその自然環境への影響について詳しく説明し、ごみの正しい収集方法、リサイクル法などに関する意識を高める。

### 8 発表要旨

ダリネレーチェンスク市は沿海地方北西ウスリ川 (Usury)、ポリシャーヤウッスルカ (Bol' shaya Ussurka)、マリーノフカ (Malinovka) 川流域に位置する小さい町です。私たちの学校は市の中心部にあります。学校の南側に市で一番交通量の多いレーニナ (Lenina) 通りがあります。学校周辺には他にも2つの大通りがありますが、どちらもそんなに交通量はありません。学校の周りにはたくさんの木があります。これらの木は、学校と通りの間の仕切りのような役割があつて、騒音を抑えて、涼しさを与える役割もあります。

学校の建物沿いに大きな花壇があります。2005~2006年に花壇用の花の苗を生徒たち自身が育てました。一部の苗は生物学教室内、残りは生徒たちの自宅で育てていました。4月に花の種を、用意された箱の中に植えます。それから毎日成長具合を確認し日記に記載します。この方法によって自宅と生物学教室内で育てている苗の生長を比較できます。自宅で育てている苗に何か問題があれば、先生に相談することもできます。5月末には、皆の日記を集めて意見交換会を行い、育てた苗を学校の周りの花壇に植え替えます。

8月末にはすべての花が満開でとてもきれいに見えます。花壇の中に自分で育てた苗を見つけることはとても面白いです。自分で一生懸命育てた植物は学校周辺の環境改善になり、将来の社会人生活への大切な最初の一步にもなります。

1996年に学校で講習実施団が設立されました。そのメンバーは主に7~8年生で、生物学教師の指導を

受けて沿海地方自然環境、動植物界に関する興味深い資料を集めて講習会を実施しています。一番初めの講習会はアムールトラをテーマにしたものでした。数年間でさまざまな資料を収集することができました。たとえば、ビデオやオーディオ資料、雑誌の写真や専門文献などです。

講習会の終わりにクイズがあり、優勝者には生徒たちの手によって作られた参加賞が送られます。ほとんどの講習会は小中学生のために実施されています。講習会の資料を集めながら担当者自身も沿海地方の自然環境についてさまざまな新しい情報を学んでいます。そして講習会のときに自分で学んだことを後輩たちに一生懸命伝えようとしています。

学校にはもう一つの伝統があります。1日をボリシャーヤウッスルカ川の岸で過ごすことです。その日は「健康の日」と呼ばれています。全ての生徒と教師が参加する運動会のようなものです。各クラスがチームを作ってさまざまな協議をします。たとえば、誰が一番早く火を起こせるか、誰が一番早くテントを広げられるか、などです。

チームごとにキャンプを作って、魚を釣り、釣った魚でスープを作って皆で食べます。帰る時皆で後片付けをします。自分のごみを片付けてから、更に川の岸沿いを歩きながら散らかされているごみを拾います。

年に1回、4月「地球の日」に全ての生徒が環境保全ボランティア活動に参加します。学校内のごみ収集、木の消毒、剪定などを行います。昨年、学校の木に8個の新しい巣箱が設置されました。

高校生たちはマルス (Malus) 学校内研究所で様々な環境研究を実施しています。学校内環境、教室内環境、水道水質、学校周辺の交通量とその生徒の健康への影響など。生活廃棄物のもっとも最適な処理方法の研究にも取り組んでいます。また、毎年様々なレーベルの環境事業に参加して自分の研究結果を発表しています。

2005～2006年にダリネレーチェンスク市立社会経済大学によって開催された「若者と現代社会」という科学シンポジウムに参加しました。環境部門で2つの研究結果発表を申請しました。「生ごみの処理方法の研究」と「学校・家庭内環境による健康への影響」です。

## 9 活動結果について

植物の苗を育てながら中学生が植物栽培を体験できます。また自分で育てた植物を通じて自然環境に関する意識も高まると思われれます。自然環境を破壊するのではなく、改善する気持ちが高まります。

生物多様性に接して、全ての生物には環境の中での自分の役割があり、不要な生物はいないということを理解するようになります。

ごみ収集事業もごみを捨てない心を育てていきます。

生徒たちによる環境研究は実践されています。また、「学校・家庭内環境による健康への影響」の研究結果は保護者たちにも紹介されました。